

2015（平成 27）年度

事業計画

■ 2012（平成 24）年に表明した「中期計画」で、本学園は知識基盤社会への移行とグローバル化が加速する世界の状況を踏まえながら、当面 5 年間の教育計画、施設計画、組織計画、人事計画、財務計画を策定した。2015（平成 27）年度の実業計画もこの「中期計画」と連動し、学園創立 100 周年に向かうアクション・プランとして着実に実行するものである。 ■

「中期計画」は、学園の教育目標を「グローバル社会の様々な分野で実践的、主体的な役割を担える創造的で活力ある職業人、広い教養と高い識見を備えた社会人の育成を目標とする。グローバル化が急速に進む世界で活躍する女性の教育に尽力する」と示している。事業計画では、この目標達成のために各部門が具体的な事業を実施し、教育環境の充実に取り組むものとする。

■ 学校法人昭和女子大学 ■

学園全体

1. 施設・設備

2015 年度に予定する主な施設・設備事業の計画は以下の通り。

- ① 昭和インターナショナルハウス…購入した既設マンションを使用
- ② 昭和こども園（仮称・幼保一体型施設）…8 月竣工予定
- ③ 北校地（新たに取得した校地）…既存建物解体 8 月・新校舎竣工は 2016 年度末
- ④ 80 年館改修（西棟 1・2 階）…10 月完成
- ⑤ 西門守衛室等…10 月完成
- ⑥ 小学校校舎耐震補強工事…8 月完了
- ⑦ 全学省エネ機器更新工事…8 月完了
- ⑧ 学寮…エアコン入れ替え・トイレ・寮室改修…4 月完了
- ⑨ 人見記念講堂改修工事…10 月完了

2. 新たな施設の運営

A. 昭和こども園（仮称）の開設

2016 年度から昭和幼稚園を幼保一体のこども園へと発展させ、0 歳児から就学前まで一貫した教育・保育を実施する。幼稚園は 8 月に新園舎へ移転して、こども園開設の準備を行う。

B. アフタースクールの実施

昭和小学校の低学年を対象に学童保育を実施する。9 月までは昭和インターナショナルハウスの施設内で試行し、10 月から小学校校舎で実施する。

3. 組織

A. 規則の改正

学校教育法および同法施行規則の改正を受けて、学長のリーダーシップのもとでより戦略的な大学運営を可能とする体制を確立すべく、学則をはじめとする規則を改正し施行する。

B. 学長室

現行の事務体制を踏まえ、組織名を大学事務局から学長室に変更する。学長および副学長の支援と大学・大学院の運営と研究支援に関する業務を統括する。加えて全学的なグローバル戦略を推進する。

C. 現代ビジネス研究所

各種プロジェクトの進捗管理や外部折衝等に対応するため事務局長を置く。

D. 国際交流センター

全学的なグローバル戦略・企画関連業務は学長室で推進。国際交流センターは多様化する学生支援を担当する。

E. 女性健康科学研究所

女性の健康を中心とした課題に取り組む、本学の自然科学を基盤とした学際・複合的な研究を行う拠点として 2015 年 4 月に設置。

F. 附属校（中学・高等学校）

役職者の担当職務を変更し、日常的な校務運営は各部長の傘下に校務主任を配置して協力しながら遂行する。

教務部長、進路指導部長＝教務・進路部長

生徒指導部長、生徒安全部長＝指導・安全部長

入試部長、企画広報部長＝入試・広報部長

4. 人事

全教職員が教育活動に専念できる組織を編成するため、各部署に適正な人員を配置する。

- ① こども園の運営に必要な職員を新たに採用する
- ② 引き続き人件費抑制に努め、人件費比率は 52%程度を目標とする。
- ③ メリハリある人事評価制度と配分システムを構築する。
- ④ FD・SD 活動を推進する。
- ⑤ 若手職員による提案型の学園改革プロジェクトを推進する。

5. グローバル化

国際交流プログラムの充実と各部門のグローバル化により世田谷キャンパスの国際化を目指す。

A. 大学

- ① 留学生受け入れ増に必要な施設やカリキュラムを検討し、学園のグローバル化を図る。
- ② アジアに目を向けて海外協定校を開拓し、留学生の出身地・地域の多様化を目指す。
- ③ ボストン留学・研修プログラムを昭和ボストンと共同で開発して参加学生数を増やす。

B. 附属校

- ① 各学校で国際理解・実践的英語教育を取り入れたグローバル教育を開発する。
- ② アジアなどでの体験型海外研修を実施。高等部で SGH プログラムを開発する。

6. 昭和ボストン

カリキュラム、学生支援体制、運営組織の見直しと再編成により、昭和ボストンの教育と質の向上を目指す。

A. 経営・管理運営体制の強化

- ① 昭和東京との連携を強めて一体感あるカリキュラム・プログラムを開発する。

B. 教育プログラムの充実

- ① 近隣協定大学の単位修得・履修・聴講するプログラムを充実させる。
- ② 地域でのボランティアやインターンシップの体験でグローバルな視野を育てる。
- ③ 東京校の教職員を対象とする研修を実施して学園のグローバル化を支援する。

7. 外部との連携

A. NPO 昭和との連携

NPO 昭和と小学校・幼稚園とが連携し、延長保育・学童保育サービスや親支援プログラムを実施する。

B. 企業・地域との連携

- ① 世田谷区と協働で地域課題に取り組む。
- ② 大学生が企業と連携して課題に取り組むプロジェクト研究を推進する。
- ③ コミュニティサービスや地域活動を奨励し、学生・生徒の基礎力を引き出す。
- ④ ロールモデルとなる社会人メンターや研究員と学生との交流を充実させる。
- ⑤ キャリアカレッジ講座で社会人女性のキャリアアップと起業を支援する。

C. 卒業生との連携

卒業生や保護者ニーズに応じる講座を提供し、在校生・在学生と卒業生間の交流機会を設け、学園と卒業生との連携を深める。

D. サポーターズ・ネットワーク（仮称）の構築

卒業生、在学生、保護者、教職員、関係企業・団体による学園支援組織「学校法人昭和女子大学サポーターズ・ネットワーク（仮称）」を構築する。

E. 社会にアピール

学園の存在感とブランド力を高めるため、積極的にマスコミ等に情報を提供する。
多様なメディアを活用して最新情報を提供し、幅広い層に広報活動を行う。

8. 環境に配慮した学園

キャンパス・アメニティの向上とともに、環境に配慮した教育・研究活動を推進し、省資源・省エネルギー・廃棄物の削減に取り組み、環境負荷の低いエコ学園を目指す。

9. 財務

A. 安定した財政

収支の基盤となる入学者数は、目標を確実に達成させて財政の安定化を図る。人件費水準の適正化に努めるとともに、経費の効率的支出を徹底して消費収支の均衡を目指す。

B. 募金制度の充実

目的別・低額の募金制度を導入する。附属校を含めた全学園関係者が収支や使途を確認できる寄付金とする。

大学院・大学

1. 組織の整備と再編成

学科のストロングポイントを確認し、カリキュラムの方向性を明確にしながら人事を計画する。
各資格の有効性を検証して講座数を削減してスリム化をはかる。

A. 将来計画

大学将来構想検討委員会において学部再編成や新学部設置を検討する。学生募集では社会ニーズを踏まえた適正な入学定員を設定する。

B. 昭和女子大学キャリアカレッジ

事務局次長を配置して規模の拡大と組織の充実をはかる。

C. 地域連携センター

新たに職員を配置してセンター機能を強化する。世田谷区との包括協定に基づき地域研究や協働事業に取り組む。

D. 現代教育研究所

研究員と会員を公募して学内外の現職教員、教育委員会、研究機関との連携をはかる。

E. 女性健康科学研究所

自然科学を基盤とした学際・複合的な研究拠点として研究成果の発信、研究人材の交流、外部資金の獲得を目指す。

F. ビジネスデザイン学科でプロジェクト研究

企業・団体と協働するプロジェクト研究に取り組み、アクティブに学ぶ環境を充実させる。

G. 世田谷区との協力事業

世田谷区との若者ひきこもり支援と中高生の身近な居場所づくりに関する協力事業に取り組む。

2. 大学のグローバル化

採択された文科省「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」の事業計画に従い、キャンパスやカリキュラムのグローバル化を一段と進める。

A. 昭和ボストンとの連携

昭和東京と昭和ボストンがさらに一体となり、密接に連携しながらグローバルカリキュラムを開発する。学生がボストン近郊で履修・聴講する協定大学の講座数を増やし、オナーズプログラム履修者を増やす。

B. 海外協定校との交流

アジアや欧州など世界の国々・地域の海外協定校と連携を深め、交流制度を充実させて交換留学生数を増やす。

C. 海外での活動の場を充実

安全に配慮しながら海外インターンシップやボランティア活動の機会を開拓・開発する。

D. 外国人学生との協働プロジェクトを実施

日本や海外で多様な文化の学生によるグループのプロジェクト研究・活動を実施する。

E. 留学生生活をサポート

昭和東京と昭和ボストンに留学アドバイザーや学習アドバイザーを配置し、学生の留学生生活をサポートする。

F. 外国人留学生の受け入れ

ホームステイなど受け入れ態勢、日常生活のサポート、奨学金制度などを充実させて外国人留学生数を段階的に増やす。

G. 外国人留学生ネットワークの構築

各種プログラムを修了した外国人留学生を結ぶネットワークを構築する。

3. 教育研究活動の推進

A. 情報の提供

委託研究など外部研究資金の情報を定期的に収集・配信するシステムを運営する。

B. 資金の獲得

学内研究資源の効率的配分、国や自治体、産業界の研究費の獲得に努める。

C. Outstanding Teacher Award

優秀な教員の顕彰について検討する。

D. 非常勤講師への FD の機会の提供

FD 活動の支援法を検討し、本学教育の質の向上を図る。

4. 学習支援・キャリア教育

社会で必要となる力を「夢を実現する 7 つの力」に示し、グローバル社会で自立し役割を担える人材の育成を目標として学生が持つ力を引き出す。

A. オナーズクラスの充実

オナーズクラスで学生のロールモデルを育てる。修了者のネットワークを構築し、リーダーシップを発揮する機会を定期的に提供する。

B. キャリア教育のさらなる体系化

キャリアデザインポリシーに基づき、専門学修とキャリア科目、プロジェクト活動、インターンシップ、メンター、ボランティア、就職支援講座などを体系化して配置し、キャリア支援システムをさらに発展させる。

C. キャリア支援の充実

インターンシップ協力事業所をさらに開拓して就業体験の場を拡充する。大学のグローバル化に合わせ、多文化が協働する事業所でのインターンシップ先も開拓する。

D. 学生支援体制の強化

保健管理室、学生相談室、障がい学生支援室、基礎教育研究所、地域連携・コミュニティサービスラーニングの各センター、ライティングサポート、社会人メンターネットワーク、現

代ビジネス研究所などを再配置して学生が活用しやすい環境を整備する。

5. 学生募集

多様なメディアを活用して情報を積極的に発信し、志願者・入学者数を確保する。

18歳人口減少期に備え、大幅なカリキュラム改正や改組などで大学の魅力を高める。

学生参加型の活動で受験生目線の広報を展開する。

一般入試は全てインターネット出願システムに移行する。

附属校

中学校・高等学校

1. 教育力の向上

外部講師等を活用した教員研修や研究授業、生徒による授業評価を実施して教師の授業力向上を図る。外部試験を活用し、学校全体の学力を把握して授業の改善に役立てる。

電子黒板やグループワークを活用した授業法・教材を研究開発し、よりアクティブな授業を実現させる。

2. Global 戦略室の設置

校内に Global 戦略室を設けて SGH 実行委員会・グローバルクラス設置委員会・ユネスコスクール推進委員会を配置し、中学・高等学校のグローバル化を一段と進める。

3. グローバルクラスの設置準備

2016 年度に設置予定のグローバルクラス（グローバル総合クラス・ユニバーサルランゲージクラス）に向けて『昭和 next』として設置委員会を立ち上げ、準備ならびに広報活動を積極的に行う。今年度はカリキュラムを精査・研究して新しいプログラムを完成させる。高等学校のカリキュラムも並行して見直し、6 年間一体のグローバルプログラムを編成する。

4. キャンパスのグローバル化

ユネスコスクールのネットワークを活用し、世界の学校との交流プログラムを開発する。ボストン研修の同世代交流やフィールドワーク、アジアやオセアニアの国々での研修などの機会を充実させて、生徒が英語を使い、多文化を理解する機会を増やす。

5. スーパーグローバルハイスクール（SGH）指定校としての取組（高等学校）

各課題研究グループの定員を 6 名から 8 名に増員し、本年度の成果を基本により研究内容と目標を発展させる。

A. LABO1・・・企業との連携を進めて生徒にインターンシップを体験させる。

米国サウスカロライナ州チャールストン市の Ashley Hall 校と連携し、現地高校生と共同で女性のキャリア形成に関する調査・研究を進める。

B. LABO2・・・ジェンダーギャップに関する研究を進め、世界経済フォーラムでランキング第 2 位のフィンランドを訪問して研修を行う。

C. LABO3・・・カンボジアにおける日本女性の NGO について研究を進め、夏に現地を訪問して研修を行う。

D. LABO4・・・2014 年度に引き続きタイの少数民族について学習し、夏に現地を訪問してボラン

ティアを体験する。

6. 保護者との連携

授業参観等の公開行事を増やして保護者の授業評価を継続しながら、双方向性のある連携を図る。
本校の ESD 教育（社会課題と暮らしを結びつけ新たな価値観・行動を生み出す学習法）活動について家庭にも周知し、持続可能な開発の担い手となる人づくりに努める。

7. 生徒募集

伝統ある人間教育やグローバル教育を充実させることで、安定した入学者数を維持する。パンフレットやウェブサイトを更新し、学校のストロングポイントを発信する。
新設予定のグローバルクラスでは別冊子を用意して生徒募集を強化する。

小学校

1. 教育・指導力の向上

教科会活動を充実させ、教師の授業改善や教材開発などの FD 活動を奨励する。公開研究授業も積極的に実施する。

学校行事の内容や日程を再検討し、教科の指導時間を確保すると同時に保護者の負担を軽減する。

2. 幼稚園との連携

幼稚園児と高学年児童と一緒に音楽などを学ぶ合同クラスを試行する。新設する昭和こども園（仮称）との連携を目的に 3 歳から 12 歳まで一貫する教育プログラムの開発を検討する。

3. 算数大会・国語大会

計算しながら学ぶ面白さを知る算数大会、漢字学習だけでなく感性を磨く国語大会など、授業で学んだ知識を生かせる大会を年間 3 回程度開催する。

4. アフタースクールの実施

働く親支援を目的に平日の 19 時まで、長期休暇中の平日は 8 時 30 分から 19 時まで、NPO 昭和と連携してアフタースクールを運営する。単なる学童保育だけでなく、英語・音楽・スポーツなどを学ぶ機会をオプションで用意する。

幼稚園

1. 幼稚園活動の充実

教師に施設見学や研修会参加を奨励し、幼児教育への理解を深める機会を設ける。

2. 昭和こども園（仮称）へと発展

2016 年度からこども園となるための準備を行い、新しい校舎・施設を活用した保育・学習プログラムを充実させる。

3. 延長保育の充実

試行していた延長保育をさらに充実させる。預かり時間は 7 時 30 分から 19 時までに延長し、保育の内容も見直す。